柿生文化

柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話：070-1503-6401/044-988-0004
http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo
第 175 号

臼井義胤翁を訪ねて２

青年臼井義胤

小林　基男（柿生郷土史料館専門委員）

義胤翁と臼井家

義胤翁の生家も幕末維新期までは、臼井姓を名乗っていましたが、生家の当主は代々庄右エ門を名乗っています。一方で臼井の殿様の家系では、成人した男子は全員名前に胤の字を使う不文律がありました。臼井本家の養子となった少年は、成長するとともに名を義胤に改めます。生家がうすい姓のまま、漢字表記を碓井に改めたのは、おそらく明治 3 年の太政官布告「平民苗字許容令」により、平民でも苗字を名乗りたい者は名乗ってよろしいと示された時ではないかと思われます。刀狩り以降の日本では、百姓町人が苗字を名乗ることは禁じられていたのですが、武家出身者は子々孫々に姓を伝えておりました。生家の臼井家では、婿養子となって家を継いだ銀治氏が、公に苗字を名乗ることが出来るようになった機会に、主筋の臼井家と同じ姓を名乗ることは畏れ多いと、臼井姓から碓井姓に改姓したと考えるのが、最も自然なように思えます。明治 8 年の布告で全国全住民を対象に「平民苗字必称義務令」が布告されますが、元士族の矜持からすると、明治 3 年改姓の可能性が高いように思えるのです。

生家の墓に刻まれた墓碑
昭和 2 年義胤建立

幕末・維新の動乱と義胤青年

義胤氏の青年時代の行動については、日記や書簡といった文字資料はほとんど伝わっておらず、義胤翁の曾孫小林一夫氏が、祖父にあたる義胤翁の次男公胤氏から聞かされた伝聞があるばかりです。それによると、曾祖父義胤翁は、絵が好きで画家として身を立てること希望したが、幕末の動乱期にぶつかって画業で身を立てることが困難となり、画家修業で鍛えた美術作品を見る眼を生かし、書画骨董の売買に活路を見出したのだそうです。

時に、1858 年 7 月（安政 5 年 6 月）の日米修好通商条約の締結が突破口となり、日本は同年のうちに、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと次々に修好通商条約を結び、一挙に開国に舵を切りました。ここに長崎、横浜、神戸、函館、新潟の 5 つの港が外国人に門戸を開き、函館や新潟には主にロシア人が、横浜や神戸、長崎には主に欧米人や中国人が交易に現れ、一部は住み着くようになったのです。

明治維新を 24 歳で迎えた義胤青年は、開国によって奔流のように変化を続ける日本社会の荒波の中にありました。彼にとって幸いだったのは、当時の欧米人が長く憧憬の念を抱いて模倣した中国文化趣味（欧米社会でシノワーズと呼ばれていました）に飽き、新たな対象を日本に求めたことでした。日本には中国以上に洗練された美意識と豊かな表現力がある。俗に徳川 300 年と言われる太平の世が生みだした文化的蓄積の豊富さと、決して奢らない洗練された美意識は感嘆に値する。こうした現地からの報道に接した英・仏・蘭などの上流社会はジャポニスムと呼ばれた日本文化への傾倒に嵌まり込んだのです。

江戸時代の日本では、国内の産出量が豊富だった金に対して、不足が目立った銀の価値が相対的に高かったのです。日本国内での交換比率は金 1g に対して銀 4.65g でしたが、豊富な銀に対して金の算出が不足する欧米の交換比率は、金 1g に対し銀 15.3g だったのです。それゆえ欧米勢は安い銀を大量に持ち込んで金と交換することで、莫大な利益を得ていたのです。大儲けした彼らは、本国の需要に応えようと様々な日本の美術品や武具を買い漁ったのです。浮世絵、屏風、錦絵に掛け軸などの絵画作品から茶器や壺などの陶芸品、着物やかんざしなどの衣類や装身具、豪華な装飾を施した刀の鞘や鍔そして印籠、さらには絵入りの扇子や団扇まで、武家や町人が生活の潤いにと所持していたものから生活必需品まで、西欧の上流社会から当時勃興期にあった中産階級までもが、ジャポニスム趣味の虜になっていたのです。一時は画家となることを志した義胤青年は、安値で金を買い漁る西欧商人に、日本の美術品を高値で売りつける商いを始めたのです。

大地に刻まれた歴史探勝　12

御野国(岐阜県)加茂郡半布里の戸籍から探る人々

村田　文夫(日本考古学協会会員)

ここまでは、発掘された縄文時代から古代社会の様相を垣間見てきましたが、最終回はわが国に現存する最古の戸籍・大宝 2 年(702)戸籍から、古代人の姿を覗いて見ましょう。

国家は戸籍をもとに国民の動静を掌握しますが、統治される側は、あまり気分良くないようです。そのあたりの心情は、現在のマイナンバー制の普及にも滲んでいますね。

現存するわが国最古の戸籍は、御野国(岐阜県)加茂郡半布里の人びとの動態が記録されたもの。[半布里]という行政区は、川崎市域でいえば武蔵国橘樹郡の[橘樹郷]に相当し、里(里は、後に「郷」に変わる)内に居住していた 1,117 名の戸籍。現代社会と相通じる一面もあり、時の流れは貴重で、多くの示唆を含んでいます。以下、ランダムに挙げておきます。

＊

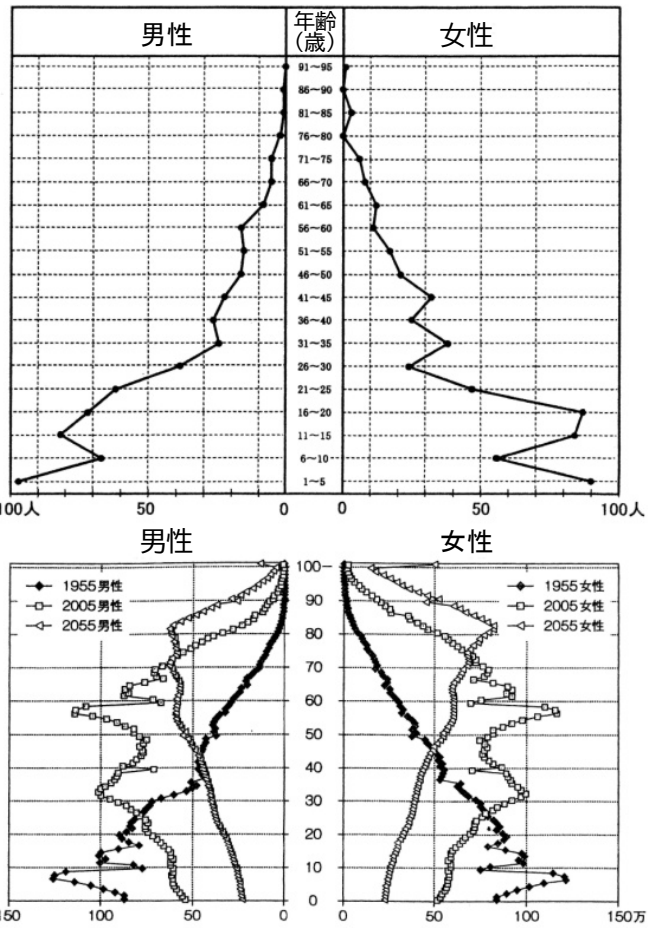
[半布里戸籍]と私達の社会。さぁ、どのように理解されますか？

1)年齢構成比等　子供が多く、年長者の少ない社会を想定されるでしょう。その通り。しかし、なんと 93 歳の男性が最高齢でした。男女の構成比では、男性 555 人に対し女性 562 人で、ほぼ同数。年齢別では、10 歳までが 309 人、11～20 歳で 323 人。合計 632 人で全人口の 57%。年齢層は低い層に多いので、現代社会とは完全に真逆になります。

2)「中位数年齢」って御存知ですか？　これはある集団内の人口を、低い年齢順に並べ、ちょうど真ん中にあたる人の年齢。わが国の 2017 年(平成 29)では、47.5 歳。一方の[半布里戸籍](大宝 2 年・702)では 19 歳。その差は歴然。一方、わが国最古の準国勢調査は 1884 年(明治 17 年)で 21.0 歳でした。大宝 2 年と明治 17 年との間では、1182 年の歳月が流れています。が、中位数年齢はわずか 2 歳の上昇。中位数年齢の推移をさらに追うと、30 歳台は 1975 年(昭和 50)。40 歳台は 2000 年(平成 12)でした。前代までの上昇曲線に比較すると、高齢者人口の上昇は顕著。第1図上段は 5 歳年齢毎にみた[半布里戸籍]の推移、同図下段の 1955 年(昭和 30・中位数年齢 23.7 歳)以降の推移曲線は、先端が尖ったピラミッド型で当然酷似。

3)結婚適齢期と離縁のルール？　戸籍から、120 組の夫婦関係が確認できます。古代の結婚年齢は、男は 15 歳・女は 13 歳以上。夫婦の年齢差は、男性年長組が多い。女性の 13 歳は、今では中学 3 年生。おそらく母体の健康保持の側面と、子沢山(こだくさん)にして口分田を多く確保したいという狭間からの配慮でしょう。夫婦生活では、女性に厳しい。①子供がいない②妻の不貞③舅に仕えない④多言・嘘つき⑤盗み癖⑥悪い病などは離縁の理由とされました。夫の非は、本人が書いた理由書を親族が保証すればよかった。ただ、税金逃れで家に帰らない夫も多く、そこで子供がいない場合は 3 年間、子供がいても 2 年間家に帰らなければ、嫁に再婚する権利だけは認められた。でもまぁ、男女不平等の極みですね。

4)双子等の多胎児が意外と多いなぁ　現在でも100人に1人の母親が双子や三つ子などの多胎児を出産され、[半布里戸籍]からも、多胎児と推測できるケースが確認できます。



第 1 図　(上段)「半布里」5 歳ごとの年齢構成、(下段)は明治 10 年以降の 10 歳ごとの年齢構成、1955 年に注目

[半布里戸籍]には同一の戸番内で、性差・年齢を問わず同一年齢である事例が 16 例ありました。うち当該の二人が同性の場合が 6 事例、男・女と異性である場合が 9 事例、三つ子と推定できる場合が 1 事例でした。すべてを多胎児とは断定できませんが、名前などを繰りながらその可能性は十分検討できます。特に興味をひいた事例は、戸口 15 番の戸主・与津(39 歳)と弟・弟都(39 歳)。年齢・名前からして確実に双子。二人の嫁である止志売(与津の妻・36 歳)と宇知売(弟都の妻・36 歳)もおそらく双子であろう。とすれば、双子の兄弟に、双子の姉妹が縁組した。男・39 歳と女・36 歳で年齢的にもお似合い。さらに与津と止志売夫婦には、双子と思われる 2 歳の女児がいます。究極の双子血筋ですね。

今回をもってわたしの担当分は終了いたします。1 年間御愛読いただき感謝申し上げます。

シリーズ
教育の歩み　番外編

ゆとりの教育をめぐって（１）

小林　基男（柿生郷土史料館専門委員）

「シリーズ教育の歩み」と題した今回の連載は、第1部「学校の誕生と成長」が18回、第2部「学級の誕生」が13回、第3部「日本の学校と教育」が30回と全61回、第３部の途中で1回休載しましたので、5年2か月の長きにわたりました。ご愛読有難うございました。連載を終えるにあたって、残念ながら無残な失敗に終わった「ゆとりの教育」について、数回思うところを記させていただきますので、お付き合いいただければ幸いです。

ゆとりの教育の登場

「ゆとりの教育」はネーミングが悪かったことと、学校五日制の導入とセットにした当時の文部省が、準備不十分のままに強引に導入を急いだことが、失敗の原因だったと私は受け止めています。文部省（現文部科学省）は常に教育改革の旗を振っており、中央教育審議会（略称中教審）の答申を受ける形をとっては、10年に1度のペースで「教育課程」の改定とセットにして「学習指導要領」の改定を続けてきました。

およそ教育の目的は、次なる時代の担い手を養成することにあります。従って教育内容も、社会の要請によって変更を加えられることは当然です。高度経済成長期に理科教育の充実が掲げられたのがその好例です。技術革新に必要な人材の充実が求められたのです。古くは無償の義務教育が発想されたのも、イギリスにおける産業革命の進展がきっかけでした。機械制工場に良質の労働力を確保する必要からでした。

アジア・太平洋戦争敗北後の日本は、GHQ（戦勝国日本占領軍司令部）の指令の下に様々な分野の民主化に取り組み、教育の民主化も推進されました。焦土と化した廃墟からの社会や経済の復興が進むにつれ、会社務めの背広組いわゆるホワイトカラー層への需要が高まり、高等学校や大学への進学熱が高まりを見せました。こうした教育熱の高まりは受験戦争の激化を招き、学歴信仰を強めることになりました。受験地獄の解消を目指した東京都の学校群制度の導入は、私立の中高一貫校への受験シフトに繋がり、受験戦争の低年齢化を招く結果となりました。こうして、全国共通の受験に対応するための全国一斉カリキュラムによる、知識重視の詰め込み教育が幅を効かし続けたのです。このシステムでは、学習効率を上げるために、児童生徒の個性や独創性は軽視され、教えられたことを覚えさえすれば好成績が約束されたのです。

時あたかも昭和30年代以降（1955年以降）の日本は、55年～60年の高度経済成長の助走期、60年～73年の高度成長期、73年～85年の石油ショックとその克服による安定成長期を経て、バブルの全盛期とその崩壊に至る85年以降の終末期という、一つの経済成長過程の生成から終末までのサイクルを完了させる時期にあたっていました。欧米型の経済社会に「追いつけ追い越せ」を目標とした日本にとって、詰め込み教育によって大量生産される従順かつ勤勉で均質な労働力を十分に確保することが、何よりも大切だったのです。詰め込み教育は日本社会の要請に見事に合致していたのです。

しかし、バブルの崩壊と共に日本社会を取り巻く状況は、奔流となって変化しました。「追いつき、追い越せ」の目標を達成した日本は、追う立場から追われる立場に変わったのです。そこにバブルの崩壊による財政・金融の危機と、ゼネコン・不動産・流通等の規制に守られた国内型産業の危機という、前例のない複合型不況が追い打ちをかけるように襲ってきたのです。追いかける目標を失った日本にとって、過去に例のない複合型不況を脱する手段を探すことは、大きな困難を伴いました。日本には世界に名を馳せた優秀な官僚機構がありました。しかし高級官僚たちもまた詰込み型教育の頂点に立ったエリートです。過去に例のある事項や到達すべき目標が見えている事柄には滅法強かったのですが、頼るべき海図のない航海となると持ち合わせた知識が役に立たず、立ち往生してしまったのです。複合不況はやがて構造不況といわれるようになり、30年を経過した現在も、なお克服することが出来ずに、日本社会は緩やかな下降を続けているのです。独創性を重んずる教育風土を持たなかった日本には、これからの日本を、そして世界をどう構想するかという全く新しい課題に答える能力を持った人材が決定的に不足していたのです。

そこにコンピューターの急速な進歩が重なりました。事務作業の大半はPCにとってかわられ、大量のホワイトカラーは、不要となったのです。詰め込み教育はもはや時代のニーズに適合するものではなくなったのです。知識の詰め込み教育に象徴される受動的学力ではなく、創意工夫する力と自ら思索し深く考える力を養う主体的学力の涵養が求められたのです。ここに登場したのが当時の文部省が提唱した「ゆとりの教育」でした。それは、欧米に「追いつけ、追い越せ」を目標に、永年にわたって続けられた詰め込み教育に別れを告げる、本格的な教育改革のスタートに見えました。しかし、この試みは失敗に終わりました。それはなぜなのか？　数回にわたり，私見を綴らせて戴きます。

第 20 回特別企画展　「ポスターで辿る昭和の映画」概説

写真技術に動きを加える技術の実現は、何人もの技術者が苦心を重ねていましたが、1889 年にアメリカのトーマス・エジソンが箱に仕掛けたロールフィルムの回転を、接眼レンズで覗き見するキネストコープを完成します。その後エジソンは硬貨を入れるとフィルムが作動する装置を工夫して、1894 年にニューヨークで公開。1 セントで 1 分間見られる装置は大人気を呼び、自動映像販売機キネストコープは全国に広まりました。

しかしこの装置は、1 回に1人しか見られない限界がありました。装置を箱から解放し、一度に大勢が見られるようにするには、箱の中のフィルムの映像をスクリーンに投射する技術が必要です。この装置を開発し、最初はカフェに 30 人ほどの観客を集め、有料の試写会を開いたのは、フランスのリュミエール兄弟でした。1895 年のことでした。彼らはこの装置にシネマトグラフと名付けて売り出しています。

映画は広い空間で大勢の観客が、同じ画面を視聴して楽しむ性格のものですから、現在ではリュミエール兄弟のシネマトグラフの発明をもって、映画は誕生したと考えられています。エジソンも1年遅れで、1896 年にヴァイタスコープを完成、シネマトグラフと共に 96 年（明治 29 年）のうちに日本にも輸入され、上映会が開かれています。

旗本退屈男 謎の怪人屋敷　昭和 29 年 12 月末公開

東映のドル箱スター、市川右太衛門の人気シリーズの第 17 作、昭和 38 年まで全 30 本が制作されています。主人公の旗本退屈男は、1,200 石の直参旗本早乙女主水之介、額に三日月型の刀傷が特徴のお殿様。周囲を取り巻く町人たちには、「退屈のお殿様」と呼ばれて慕われている設定の痛快時代劇。

「今宵も退屈の虫が鳴く」を決め台詞に悪を懲らしめる分かりやすい設定から、子どもと一緒に大人も楽しめたことから、毎回着実にヒットが見込め、東映では、正月映画とゴールデンウィークの上映映画の定番になっていました。現在もなお、テレビで活躍中の北大路欣也は、右太衛門の次男。

喜劇 駅前弁当　昭和 36 年 12 月 公開

東宝のドル箱映画、「社長シリーズ」、「若大将シリーズ」と並ぶ「駅前シリーズ」（全 24 作）の第 3 作、喜劇映画路線を定着させた「喜劇 駅前団地」を第1作と考えると、第 2 作になります。「喜劇 駅前団地」は、日本初の大規模住宅団地として有名になった地元の百合ヶ丘団地建設をめぐる土地問題を舞台に、ロケ中心に作られており、今では昔懐かしい完成当初の百合ヶ丘周辺や、当時の西生田駅（現在はよみうりランド前駅）周辺の景観が楽しめますが、本作の舞台は静岡県の浜松駅周辺。

前作に続いて、森繁久弥、フランキー堺、伴淳三郎が名前と職業を変えながらも、ライバル関係で登場し、当時売り出し中の坂本 九が前作と同じ洗濯屋で登場、加藤大介が今作から登場。女優陣は、淡島千景、淡路恵子、三原葉子らが絡み、花菱アチャコと柳家金語楼がゲスト出演。色と欲の絡んだ面白可笑しい作品になっています。

番頭はんと丁稚どん　昭和 35 年 5 月 公開 松竹

大阪毎日放送が、公開録画方式で提供した人気テレビ番組の劇場版。薬種問屋に奉公する 3 人の丁稚（茶川一郎、大村崑、芦谷小雁）と小番頭（芦谷雁之助）が日々織りなす出来事を中心としたコメディ。当初は、関西ローカルでの放送だったが、放送と同時に人気に火が付き、最高視聴率 82%というお化け番組に成長、関東圏でも日本教育テレビ（現テレビ朝日）で放送されました。脚本は花登 筐（こばこ）の書き下ろし。花登は東宝と専属契約を結んでいましたが、関係がこじれたことから、契約を解消して松竹に移籍。番組で人気の出た役者のほとんども、花登と共に松竹に移籍しましたが、茶川一郎だけが東宝に残留しました。

映画は、松竹で制作。「テレビよりも 5 倍も長く、10 倍も面白い、10 年に一度の傑作喜劇」を宣伝文句（当時キャッチコピーという言葉はまだありません）にした 88 分の映画は、場面が固定されたテレビと違って、自在に場面転換ができる利点を生かしてヒットしました。

柿生郷土史料館催物案内　【参加自由、入場無料】

◎開 館 日：12 月 3･10･17 日（毎土曜日）　1 月 8･15･22･29 日（毎日曜日）
◎開館時間：午前１０時～午後３時（緊急事態宣言等発令の場合は休館となります。）

第８５回 カルチャーセミナー

映 画 の 歩 み

日時：12 月 17 日（土） 13 時 30 分～15 時
講師：小林基男氏（柿生郷土史料館 専門委員）
会場：柿生郷土史料館特別展示室

企画展「ポスターで辿る昭和の映画」の開催に合わせ、20 世紀前半、テレビの台頭に取って代わられるまで、娯楽の王様であった映画の誕生から普及に至る過程を、当時の映画大国であった、米・仏・日を例に、お話しします。